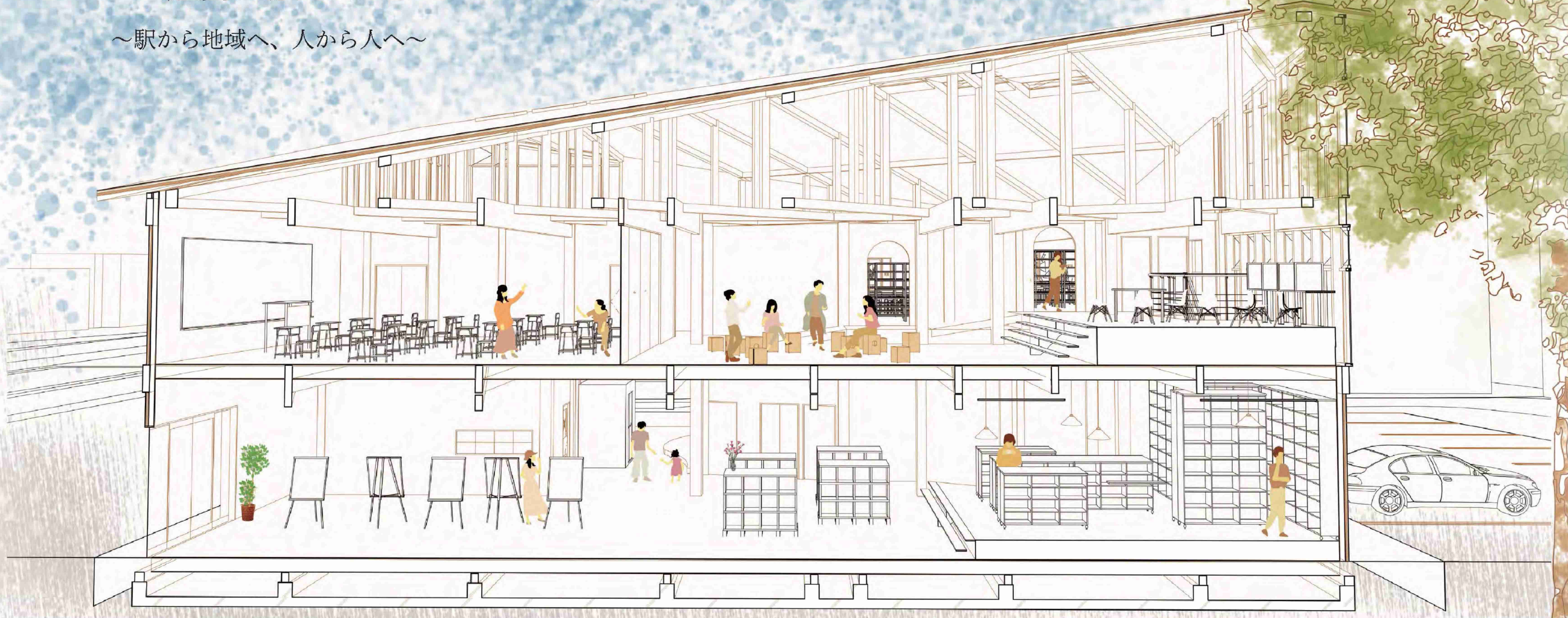


魅力の広がり

～駅から地域へ、人から人へ～



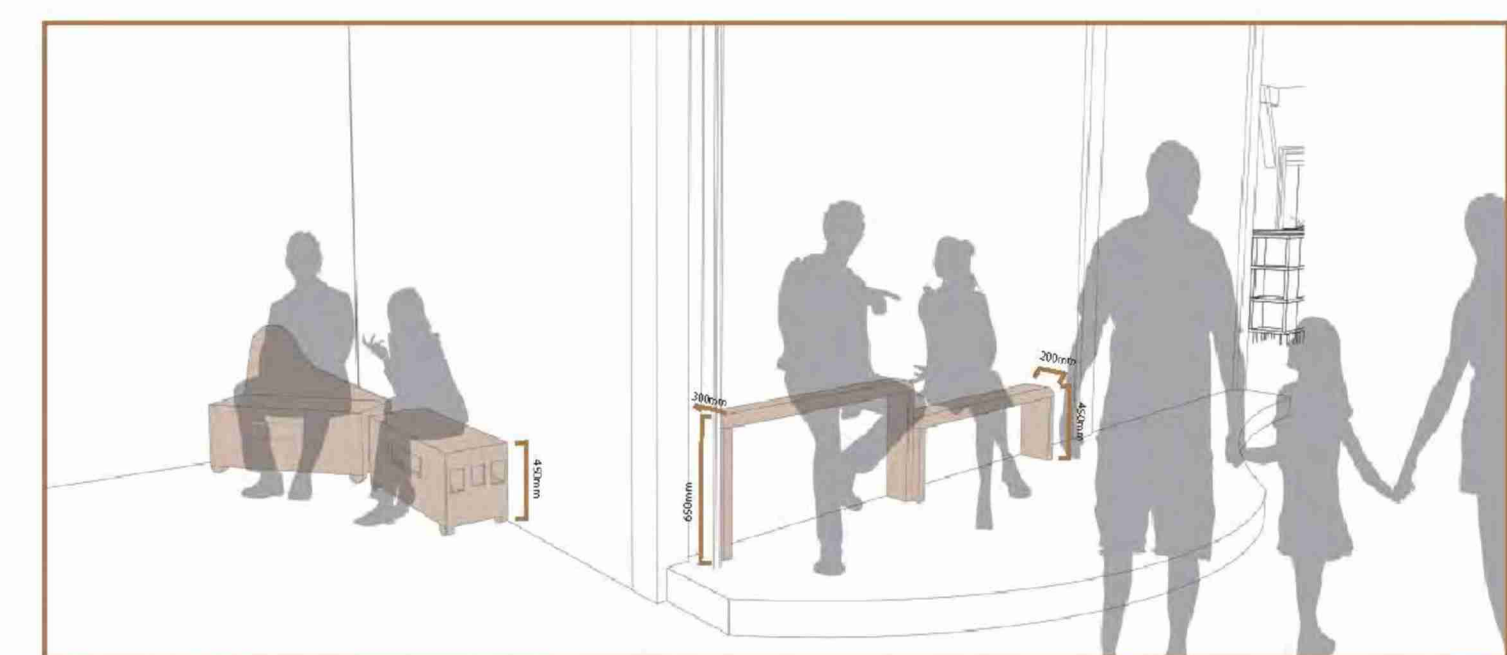
1、敷地背景



設計対象地は秋田県由利本荘市・羽後本荘駅前である。由利本荘市は県内第4位の人口規模を持ち、落ち着いた生活環境と地方都市としての拠点性を備えている。羽後本荘駅はJR羽越本線・鳥海山ろく線に加え、横手方面へのバスも発着する、市民にとって重要な交通結節点である。この駅前において、交流と観光の拠点性をさらに高めるため、秋田県立大学のサテライトキャンパスを提案する。加えて、地域の特徴を活かし、人々が自然に集い、学びと交流が広がるインテリアデザインを計画する。

2、コンセプト

駅前という立地特性を最大限に活かし、多くの人にとって魅力的な場所となることを目指し、コンセプトを「魅力の広がり」とした。「魅力の広がり」とは、施設を訪れた人々が学び、交流・体験を通じて新たな価値を見出し、その魅力が地域や世代へと広がっていくことを意味する。利用者の目的を整理し、多様な活動が交わることで生まれる波及効果をデザインに反映させる。



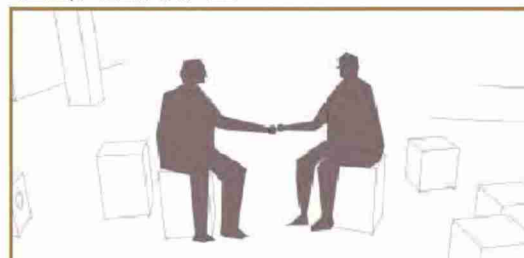
列車と鳥海山をモチーフにした椅子を南のフリースペースに置く。400mm×1500mm×450mmと座面の奥行きを他の椅子より広めにとり、ゆったりと座れるようにした。カフェで購入したドリンクなどを外の空気を感じながら楽しむことができる。150mm×1200mm×650mmと200mm×1500mm×450mm 高さの異なる椅子をトイレの脇に置く。座面の奥行きは狭く、軽く腰を掛けて過ごすことができる。スギの集成材と無垢材を使い椅子を作る。材料の加工の違いから木の魅力について深く知ってもらう。



300mm×300mm×450mmと300mm×300mm×450mmの高さの異なる椅子を置く。自由な話し合いが活発に行えるように椅子の形状は持ち運びやすいボックス形を採用した。サテライトキャンパスを利用する社会人と大学生が交流する空間となることを期待する。スギに木目が活かせる塗装剤を用いて、塗装による木の雰囲気の違いを感じてもらおう。

3、利用目的

社会人と大学生



新たな学びを求める社会人は、キャリアアップや生涯学習の充実を目的にサテライトキャンパスを利用する。

一方、大学生は研究発表や公開授業の場としてサテライトキャンパスを活用する。この二つの利用を結びつけ、世代を超えた交流を生み出す場として、2階ギャラリー&イベントスペースを提案する。

地元住民



駅前の施設は、電車やバス、車の待ち時間や待ち合わせまでの空き時間を過ごす“居場所”としても活用されます。そこで、カフェや古本屋を併設し、気軽に寄り道できる空間を提案します。

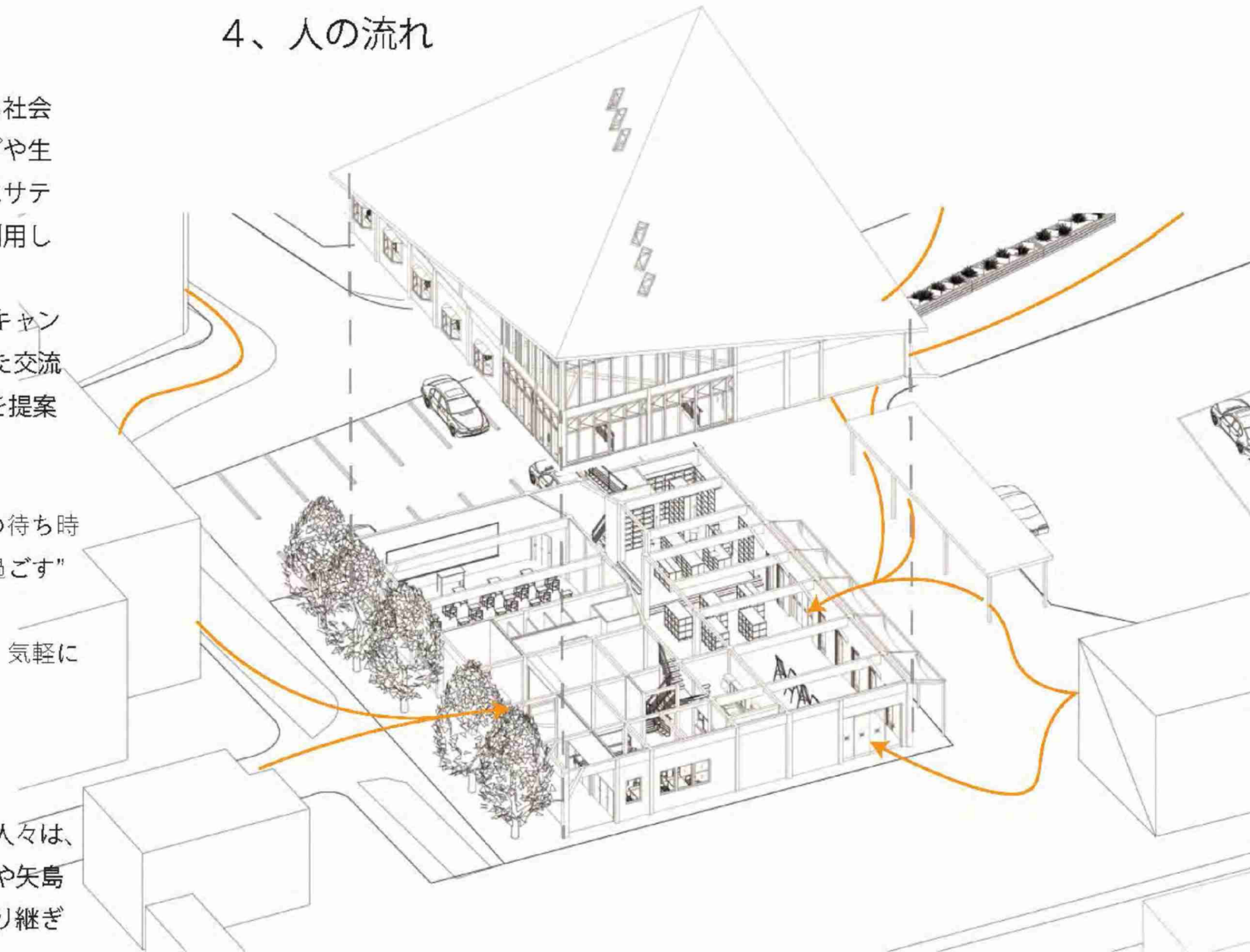
観光客



地域外から訪れる人々は、由利本荘市内の観光や矢島など周辺地域への乗り継ぎで駅前を利用する。そこで、地域の魅力を発信するショップや、秋田

県立大の研究・提案内容の展示を設け、学びと観光の拠点とする。さらに、秋田杉を用いたインテリアにより、秋田の自然を身近に感じられる空間を創出する。

4、人の流れ



南北断面図 1:200



北側立面図 1:200

